

教職大学院 NEWS



三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻

第8号 H30.3月発行

三重大学教職大学院 一年目を終えて……

平成29年4月、三重大学に大学院教育学研究科教職実践高度化専攻（教職大学院）を開設し、三重県教育委員会から派遣の現職教員10名、学部卒業者5名の計15名の大学院生を迎え、早一年が過ぎようとしています。この一年は、何をすることも初めてのことで、院生15名と大学教員が試行錯誤を重ねながら、教職大学院の協働的な探究を形作ってきました。ここに、この一年間の学びについて、院生の感想等を紹介します。

【学校経営力開発コース】

角谷 道生	教職大学院での授業や東紀州実習・連携校実習等を通して、「自分自身のあり方」について深く考えられるようになりました。「私はなぜこれをしたのか」、「他者の何が目の前の事物をつくり出しているのか」、そうした背景に思いをはせることは、教育活動全体をよりよいものにするための根底にあるものだと思います。教科指導や授業改善を直接学ぶのではなく、その根底にある「考え方」、「学び方」を深く学んだ一年でした。
小宮 康子	1年間で自分がどれだけ変容したのか、成長したのかは、わからないというのが実感だ。しかし、2回の実習（連続的な観察）や様々な学校の実践に触れることができ、主体的に学ぶ子どもたちの姿から、今までの校内研修担当としての取組を客観的に振り返ることにつながることができた。また、今までは経験や感覚からものを言うことに留まっていたが、経験や感覚を意味づけるための理論と出会ったことは、今までにない学びであった。
杉野 拓也	この教職大学院にくるまでは自分の考えるイメージのままに授業を実践してきた。しかし、教職大学院で学んだ授業や校外への研修会の参加により授業に対して明確なイメージを持てるようになった。また、学校への関わり方に積極的になった。自分の授業のみならず学校がよい方向へいくにはどのように職員にアプローチすれば良いかを考えるようになった。2年目においてそれを実践していくことが課題となる。
世古 浩一	この1年間、学修テーマだけでなく、学校経営やカリキュラムなど教育について幅広く学びました。大学の先生方、高等学校、中学校、小学校の現職、教育実践力開発コースの皆さんとともに学び、意見を交流することで、これまでの自分の考えや取り組みを何度もふりかえることができました。充実した1年でした。
野呂 貢一	私が、教職大学院に入学しようと思ったきっかけは、自分の授業に対した漠然と、「本当にこれで良いのだろうか？」という疑問を抱いたことでした。そこで、大学院での時間を活かし、とにかく多くの小中学校の研究授業を参観させていただきました。すると、これまで指導技術を向上させることだけに視点を置いてきたのですが、子どもを通して自分自身を「省察する」ことの大切さに気づくことができました。
福永 名津	昨年4月に入学してから、今に至るまで本当に時間の経過を早く感じた1年でした。とにかく課題と研究の毎日だったと思います。授業中の話し合いを通して、他の院生の方々から多くのことを学ばせていただきました。また自分の考えの甘さや理論的根拠のなさに気づき、先生方には大変丁寧にご指導いただきました。教育相談に関してまだ自分にとって無知な部分があります。来年はさらに理論と実践の融合を目指したいと思います。
古川 真由美	この一年、県内小学校・中学校での実習をはじめ、県外の学校や様々な機関での取組を知ることで貴重な機会をいただきました。高校現場の視点からだけでなく、改めて、子どもたちの成長にとって「学校教育の意義とは何か」を幅広く考える時間をいただきました。この機会を与えて下さったすべての皆様に心より感謝申し上げます。今後は、教職大学院で得たものをどのように還元するのか、真摯に考え取り組んでいきます。よろしくお願い致します。
牧野 江津子	1年間の教職大学院での学びを振り返って、多くの科目や大学の先生方から、教育に関する理論や、専門的な知識・技能を学ぶことができたのが大きな収穫でした。また紀州・連携協力校実習や学校視察を通して、様々な学校の授業研究を参観し、授業の見方や他校の校内研修会の様子も知ることができました。教職大学院での貴重な学びや経験を、4月から現任校へ戻り還元し、さらに自身の学修テーマの研究を深めていきたいです。

水谷 佳満	この1年間で最も変わったのは授業を組み立てる際に最初に「生徒にどんな能力を身につけさせたいのか」と考えるようになったことです。教材や授業の流れはその後のことと考えています。私の学修テーマはプログラミング教育についてなのですが、最初に子どもに身につけさせたい能力について考えたことで、研究の方針がはっきりしたと考えています。教職大学院で「何が本質的に重要な問題か」を考えることについて学んだ成果だと思います。
峯下 隆志	これまで、高校現場で教育実践をしながら、書籍や種々の研修、セミナー等で実践的・理論的に学び続けてきたが、三重大学教職大学院に入学し学修を進めることで、より詳細で明確にそして深く理論を理解することができた。特に、他校種の学校への実習や共に学ぶ院生との対話を通じた交流は、教職大学院に来なければ得られなかった貴重な体験であり、さらなる実践のための新たな視点や具体的な示唆を得ることができた。

【教育実践力開発コース】

浦口 真凜	この1年間、大変多くの事を勉強させていただきました。先生方からもそして、一緒に授業を受けた方々からも学ぶことができ、とても充実した1年間だと思っています。教職大学院での授業を受けて最も驚いたことは、必ず自分の意見を言わなければいけないことです。それは全体でまたはグループワーク、時に1対1でと様々でしたが、自分が何を考え、疑問に思っているのかを伝え聞きあうこと。それが大切なのだと勉強になりました。
二宮 眞帆	この一年間の一番の成果は、自分をよりよく知ったことだと思います。講義や実習、研修等を通して、少ない経験を振り返ったりベテランの先生や専門家のご意見に触れたりする中で、何度も迷い立ち止まりました。しかし、結果的に未来の教師として今克服すべきことだけでなく、やりたいことまで具体的に見えてきたので、いい収穫になりました。来年度の長期実習と再来年度の正規勤務に向けて、より一層気合が入りました。
西田 郁美	1年間の教職大学院での学びを通じて、多面的な見方・考え方をできるようになったように思います。授業のなかでも、3～4人で意見交流することが多かったのも、自分1人だけの考えにとらわれずに物事を考えることができました。また自分と同年代の教育実践力開発コースの方、学校経営力開発コースの現職の方、経験の異なる人との意見交流は教職大学院で1番魅力に感じた部分です。
吉川 和希	この一年間、小学校や中学校など様々な教育現場を訪問する機会をいただき、教職の難しさ、奥深さを再確認することができました。また講義では様々な課題や理論について、現職教員学生の方々との話し合いを通して、共に考えることで学びを深めることができました。日々の現職教員学生の方々との会話を通じて、学部新卒の段階では至らなかった考え方や学校教育について多角的に見る力が身についたと感じています。
吉村 友希	この1年間、附属実習や様々な研修で、幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の子どもの姿から学ぶ機会を多くいただきました。将来私が向き合うのは高校生ですが、生徒一人一人にそれまで積み重ねてきた学びがあることを心にとめ、それらをさらに伸ばして将来につなぐ学習指導ができる教師になりたいという思いが強くなりました。来年度は、授業で学んだ理論や研究方法を踏まえ、より具体的な実践の方法を探っていきたいです。

あなたも一緒に教職大学院で学びませんか？

◆三重大学教職大学院説明会（予定）◆

第1回教職大学院説明会 日時：平成30（2018）年5月19日（土）14：00～16：00
会場：三重大学教育学部専門校舎1号館4階大会議室

第2回教職大学院説明会 日時：平成30（2018）年10月8日（月・祝）14：00～16：00
会場：三重大学教育学部附属教職支援センター2階教職大学院レクチャールーム

編集・発行 三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻（教職大学院）広報担当

☎ 059-231-9319（学務担当）

〒 514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

URL <http://mkd.edu.mie-u.ac.jp>（教職大学院専用 HP）

✉ info-mkd@edu.mie-u.ac.jp